

平成27年度 編入学・学士入学試験問題

学類名	人間発達文化学類	科目名	小論文
-----	----------	-----	-----

問I 資料1は、野矢茂樹（編著）『子どもの難問 哲学者の先生、教えてください！』（中央公論新社、2013）の一部です。資料中の問いに対する二人の回答を、あわせて400字以内でまとめなさい。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から公表することができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができま
せんのでご了承ください。

(出題者注) 出題の都合上、原文を一部変えています

問Ⅱ 資料2はローレンス・コールバーグ著『道徳性の発達と道徳教育』（麗澤大学出版会、1987年）の一部です。資料2を読んだ上で、ハインツが盗みをするのは正しいか、それとも間違いか、その理由をできるだけ詳しく400字以内で述べなさい。

【資料2】

ヨーロッパで、1人の女性が非常に重い病気、それも特殊なガンにかかり、今にも死にそうでした。彼女の命が助かるかもしれないと医者が考えている薬が1つだけありました。それは、同じ町の薬屋が最近発見したある種の放射性物質でした。その薬は作るのに大変なお金がかかりました。しかし薬屋は製造に要した費用の10倍の値段をつけていました。病人の夫のハインツは、お金を借りるためにあらゆる知人を訪ねて回りましたが、全部で半額しか集めることができませんでした。ハインツは薬屋に、自分の妻が死にそうだとわけを話し、値段を安くしてくれるか、それとも支払い延期を認めてほしいと頼みました。しかし薬屋は、「だめだね。この薬は私が発見したんだ。私はこれで金儲けをするんだ」と言うのでした。そのためハインツは絶望し、妻のために薬を盗もうとその薬屋に押し入りました。

(出題者注) 出題の都合上、原文を一部変えています

問Ⅲ 資料3は、川本和久著『子どもの足が2時間で速くなる！ 魔法のポン・ピュン・ラン』（ダイヤモンド社、2009年）の一部です。あなたが、児童期に全力を尽くした体験と、そこから得られたことを400字以内で述べなさい。

【資料3】

こんなことをおっしゃるお母さんがいます。

「かけっこが速くなると、何かいいことがあるんですか？」

「うちの子は、かけっこが苦手でも勉強が得意だからいいんです」

「陸上選手になるわけではないので、かけっこはやらなくてもいいと思います」

たしかに、足の速さを活かして将来成功する職業なんて、限られています。でも、そうではないのです。かけっこの意味は、自分の全力を尽くすことにあるのです。これからお話する「ポン・ピュン・ラン」を身につければ、誰でもかけっこが速くなりますが、速くなることは2番目の目的で、かけっこが好きになって全力疾走する喜びを小さい頃から知ってもらいたいというのが1番目の目的です。

人間誰でもすばらしい能力を持っています。力がうまく発揮できない人は、常識というフタで自分の能力を押さえつけているだけです。「私はこのくらいのレベルだ」と思い込んでチャレンジすることをあきらめているので、それより上に行けないのです。人間は、自分のイメージを超えて成長することはできません。陸上選手でも、県大会の決勝を目標にしている人は、そこまでしか行けません。福島大学の選手があたりまえのように全国大会で活躍できるのは、そこで活躍している先輩を間近で見て、自分もそのレベルに到達できると信じているからです。

少し高い壁を乗り越えるには、全力を出すことが大切です。全力の出し方を学べるのが、かけっこです。速い・遅いは個人差があつてあたりまえ、とにかく全力で走ることが大切です。100人で競争すれば1位～100位まで順位がつきます。人に負けることは恥ずかしいことでも、悪いことでもありません。ですから日頃から、

「かけっこでホントに大切なのは、勝ち負けではなく全力で走ることだよ」

「自分の力を出し切ることがすばらしいんだよ」と、話してあげてください。

そうすることで、夢に向かって走っていく、気持ちの準備ができます。全力疾走の経験を小さい頃から学んでおけば、将来人生の分岐点に差しかかったとき、どんなことにも前向きにチャレンジしていく勇気をもつことができます。

(出題者注) 出題の都合上、原文を一部変えています

平成27年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

人間発達文化学類 編入および学士入学

人間発達文化学類のアドミッション・ポリシー「教員をはじめ地域や企業で活躍できる広義の教育者（人間発達支援者）を目指す意欲を持ち、卒業までに

- ・ 人間および文化に対し、それらの仕組みや相互関係について「理解し探究する力」
- ・ 主体的に現実にふれ、働きかける「人や文化と関わる力」
- ・ 課題を発見し知識や技術を通して「解決し創造する力」
- ・ 上記3つを基礎として、全体として人間の発達を支援し文化を育んでいく「教え育む力」

この4つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。

大学において新たな知識や技術を身につけるため、これまでの基礎的な学力とともに教育・人間・文化・社会への問題意識、及び人間発達支援に対する強い意志などを有している学生を求めます。」という意図に沿い、資料を与え、一定の字数で論述させることにより、受験者の理解力・思考力・表現力を総合的にみます。

問Ⅰは、資料1で示した「えらい人とえらいくない人がいるの？」に対する回答をまとめさせることにより、文章に対する理解力をみるものです。

問Ⅱでは、資料2を提示し、そのような葛藤場面において、どこまで合理的に選択肢の善悪を考え抜くことができるか、思考力を問います。

問Ⅲでは、資料3を読んで、物事に全力でぶつかることの大切さについて実体験を簡潔に表現させるものです。

以上により、受験者の理解力・思考力・表現力を総合的に判断します。